

ビジュアルデザイン論 II b

No.	到達目標	評価基準					評価方法		
		S (極めて高い水準で達成している)	A (高い水準で達成している)	B (標準的な水準で達成している)	C (最低限の水準で達成している)	D (未達成である) 1つでもあてはまれば不合格	課題① 40%	課題② 40%	プレゼンテーション 20%
1	After Effectsを用いたアニメーションの特性について理解することができる。	After Effectsを用いたアニメーションの特性について高度な理解があり、効果的に活用できる知識を持ちながら、オリジナリティのある表現に結びつけることができる。	After Effectsを用いたアニメーションの特性について高度な理解があり、効果的に活用できる知識を持つ。	After Effectsを用いたアニメーションの特性について、一般的且つ基礎的な理解がある。	After Effectsを用いたアニメーションの特性について、最低限の理解がある。	After Effectsを用いたアニメーションの特性について理解していない。	○		○
2	映像制作の土台となるストーリーを作ることができる。	映像制作の土台となるストーリーを作る能力が極めて高く、オリジナリティ溢れる複雑なストーリーラインを構築できる。	映像制作の土台となるストーリーを作る能力が高く、表現に工夫があり、オリジナリティのある内容になっている。	映像制作の土台となるストーリーを作る能力がある。	映像制作の土台となるストーリーを作る能力がある。	映像制作の土台となるストーリーを作る能力が不足している。	○		○
3	Webサイトのユーザビリティ、アクセシビリティについて理解することができる。	Webサイトのユーザビリティやアクセシビリティにおいて卓越した理解と能力を持ち、実践的且つ効果的に応用しながら、オリジナリティのある表現ができる。	Webサイトのユーザビリティやアクセシビリティについて高度な理解があり、実践的且つ効果的に応用できる。	Webサイトのユーザビリティやアクセシビリティについて一定の理解があり、実践的な状況で活用できる。	Webサイトのユーザビリティやアクセシビリティについて基本的な理解があるが、実践には至っていない。	Webサイトのユーザビリティやアクセシビリティについての理解が不足している。		○	○
4	近年の映像やWebサイトに用いられる技術や表現について学習することができる。	近年の映像やWebサイトに用いられる技術や表現において、卓越した理解と能力を持ち、効果的且つオリジナリティのある表現につなげることができる。	近年の映像やWebサイトに用いられる技術や表現について、高度な理解があり、効果的に応用できる。	近年の映像やWebサイトに用いられる技術や表現について、積極的に学習し、その方向性を理解しようとしている。	近年の映像やWebサイトに用いられる技術や表現について、興味を持ち始めているが、十分に追求していない。	近年の映像やWebサイトに用いられる技術や表現についての知識がなく、学習の取り組みも見られない。	○	○	○